

○ 取組の背景

- 1 イチゴ農家が高齢化する中、産地を維持するため受入農家拡充し、研修体制を強化する。
- 2 スマート農業の導入と活用により、高位安定した収量確保を目指す。
- 3 環境負荷軽減対策を推進し、持続可能な生産体制を確立する。

○ 課題・目標

- 1 新規就農者の育成、確保
- 2 スマート農業の導入による施設管理の省力化と生産性向上
- 3 IPM技術の導入による農薬散布回数の低減と高設栽培における化学肥料の使用量低減

表1 対象集団の目標(平成30年からの累計)

項目	現状	目標
地域受入農家(戸)	2	3
新規就農者数(戸)	15	18
複合環境制御装置導入面積(a)	163	199
IPM導入面積(ha)	13.5	14.0
化学肥料の削減面積(a)	24	72

普及指導員の活動

○推進方向1 「新規参入者の育成及び確保」

■がんばる新農業人支援事業の取組拡大

(1)指導対象:JAハイナン、JA大井川

(2)活動内容

- ・JAハイナンにおける新たな受入農家の確保
- ・新規就農者育成総合対策の研修機関認定申請支援
- ・研修生への支援(就農計画の作成や各種補助金申請等)

■イチゴ基礎講座の開催

(1)指導対象:イチゴ新規就農者及び新規参入者

(2)活動内容

- ・イチゴの生理生態、防除、栽培管理などの講義(年12回)
- ・就農3年以内に高設6t/10a、土耕5t/10aの目標



図1 ハイナン地域受入連絡会



図2 イチゴ基礎講座

○推進方向2 「スマート農業技術の導入促進」

■スマートイチゴ研究会の開催による先端技術の情報共有

(1)指導対象:イチゴ新規参入者及び規模拡大志向者

(2)活動内容

- ・研修会4回、現地検討会2回開催
- 複合環境制御装置の導入
- ・次世代施設園芸デジタル化支援事業の活用

■モデル農家における栽培実態調査

(1)調査対象:イチゴ基礎講座受講生

(2)活動内容

- ・現地巡回指導 18回
- ・ハウスの適温管理による高温障害果対策と夜間変温加温による省エネ化



図3 スマートイチゴ研究会

○推進方向3 「環境に配慮した生産方式の導入促進」

■IPM研究会の開催

(1)指導対象:JA大井川イチゴ部会

(2)活動内容

- ・みどりの食料システム戦略交付金「グリーンな栽培体系への転換サポート」実施支援
- ・天敵温存作物と天敵アブラバチの導入 10戸
- ・UVBの導入 2戸



図3 JA大井川IPM研究会

具体的な成果

○「新規参入者の育成及び確保」

■新規受入れ農家

- ・イチゴ: 2→5戸 (JAハイナン管内にてイチゴ受入農家配置)

■新規就農者の就農計画作成指導

- ・イチゴ認定新規就農者5戸

■イチゴ基礎講座の受講者数

- ・9回、延べ119人(12月末時点)

表2 イチゴ受入れ農家の推移

農協	2021年	2022年
大井川	2	3
ハイナン	0	2
合計	2	5

○「スマート農業技術の導入促進」

■複合環境制御装置の導入

- ・イチゴ: 2戸、35 a
- ・県単事業を活用し、複合環境制御装置の導入を支援した。

■モデル農家における実態調査

- ・目標収量達成農家

6t/10a 1戸

- ・ハウスの適温管理の重要性を確認し、生産者と情報共有した。

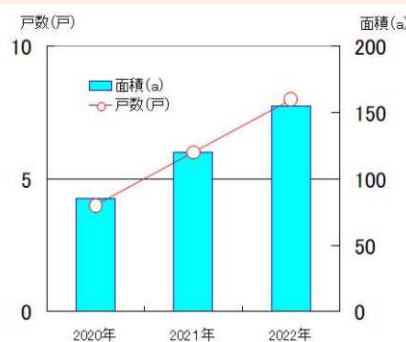


図4 複合環境制御装置の導入状況

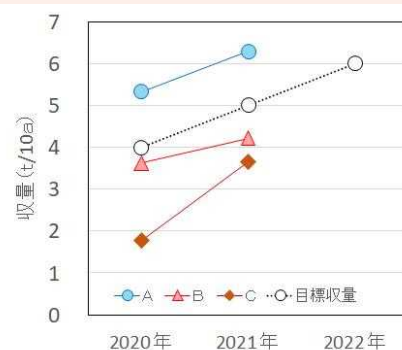


図5 収量の推移

○「環境に配慮した生産方式の導入促進」

■天敵カブリダニの導入

- ・イチゴ64戸、14.5ha

■天敵温存作物と天敵アブラバチの導入

- ・イチゴ16戸、514a

■UVBの導入

- ・イチゴ3戸、40a

■日射比例給液装置の導入

- ・イチゴ: 5戸、100a

- ・給液回数はタイマー

方式に比べ育苗ほで27.3%、本ほで17.0%削減された。

■成果のポイント

- ・天敵導入により殺虫剤の散布回数が、UVB導入により殺菌剤の散布回数が低減された。また、日射比例給液装置導入により10a当り約3万円コストが削減された。

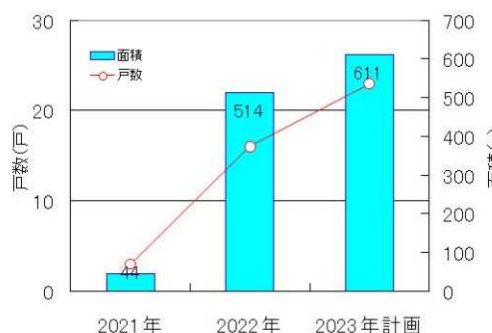


図6 天敵アブラバチの導入状況の推移

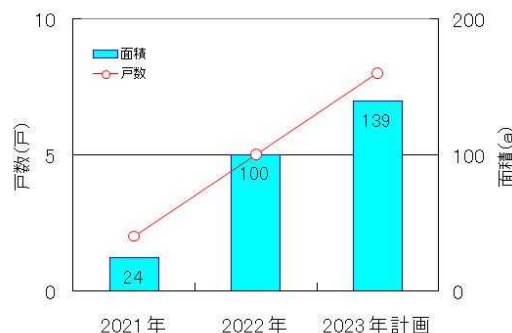


図7 日射比例給液装置導入面積の推移